

授業を始めるにあたって

戦間期とは

1918年～1939年のこと Inter-war Period

第1次世界大戦から第2次世界大戦までの話。

1923年までヨーロッパは危機

1924年からアメリカの経済援助 危機は鎮まる

しかし

1929年10月アメリカ発の世界恐慌 世界経済が大混乱

1939年第二次世界大戦

この間

東欧の中ではフランスと関係を強くするところあり。 東欧はフランスの嫌いなドイツとソ連に囲まれている。

ソ連はスターリンによる一国社会主義論を展開。

アメリカはヨーロッパに資金援助。債務国から債権国へ

今回の内容を簡単に説明すると

フランスと関係が深い。



何故？ フランスの嫌うドイツとソ連の間にあるから。

チェコスロヴァキア・ポーランド・ルーマニアは

フランスとの連携でヴェルサイユ体制を守ろうとする。

ポーランドでは

ソヴィエト＝ロシアと戦争し領土を拡大したが

1926年：軍人のピウスツキがクーデタで独裁権力を握る

バルカン地域では

セルブ＝クロアート＝スロヴェーン王国成立



南スラブ民族がまとまり



戦間期の東欧・ソ連・アメリカ

戦間期の東欧

2人のバトル

書記長であったスターリンはトロツキーを追い出す。

トロツキー暗殺後に大粛清 (100万人単位)

トロツキーは赤軍のトップ。

赤軍も粛清の対象に。 ソ連がその後戦争に対して強気ではなかった理由。

第1次五カ年計画

炭鉱の開発とコンビナートの形成 (コンビネーションのロシア語)

戦間期のソ連

農業を機械化し 農業の効率化を目指す。

農業集団化の理由は

ボリシェヴィキは都市の労働者が主な支持層。

不慣れた農民管理を簡単にしたい。

第1次世界大戦後は

経済において

世界の中心がロンドンのシティから、ニューヨークのウォール街へ。

孤立主義的雰囲気から

これ以上にヨーロッパに関わりたくない。

外交において

国内市場を高関税で守る。

ドーズ案、ヤング案で賠償問題を解決。

戦間期のアメリカ

政治において

フォード車など普及 ラジオ・映画の発展。

一方

伝統的な白人社会の価値観の強調により

東欧・南欧の移民制限